

読書と新聞

昨年、少年院を出たアイドルとして話題になった女性がいました。彼女は20才の人気アイドル、戦慄かなのさん。現在は大学生活と芸能活動の二足のわらじで多忙な日々を送る生活のようです。昨年あるTV番組に出演し、幼少期の両親の離婚、虐待、いじめ、自殺未遂、JKビジネスなどこれまでの壮絶な生活を語っていました。少年院は最短で10ヶ月ほどで出所できるらしいのですが、彼女は2年間少年院内で生活していたようです。少年院での生活も反抗的であったことなど少年院での生活も話題になりました。その少年院で彼女は、「秘書検定、危険物取扱者、ワープロ検定、エクセル検定、そろばん検定一級、漢検準一級、高卒認定試験(大検)」など受験できる資格は全て取得したそうです。こうみると、かなりの努力家なのでしょう。

彼女が少年院で過ごした2年間の生活で私が特に印象に残ったことは、2年間で5000冊近くの本を読んだことと、新聞を隅から隅まで毎日読み込んだということです。彼女自身、「スマホもないしテレビも自由に見られない中で、勉強と読書だけが楽しみでした。本は小説から心理学の本まで、置いてあるものなら何でも読みました。本当は1週間に3冊までしか借りられないんですが、あまりに夢中だったので上限なく貸してもらえるようお願いしました。1日3冊のペースで読んで、ノートに感想をつけて…」と語っています。また、社会から隔離された少年院で過ごす中では、社会に追いつきたいから新聞を隅々まで読んだそうです。「社会から隔離されると社会の情勢、社会からの情報に飢える」と話していました。彼女は今、法律を学ぶ大学生として、芸能人として、そして自分と同じ境遇の育児放棄・児童虐待のない世の中を作るための活動をしているようです。

読書とか新聞といった、活字から得られる情報が、私たちの生き方や考え方、社会生活にとって大切なものであるかという一例だと思います。今の若者が、あふれるほどの情報が氾濫している現代の社会で、本当に必要な情報を得ようとしているのか、社会人として社会の情勢に興味を持っているのか……。16歳から2年間少年院で過ごしたという彼女のことは聞き、成熟した社会で私たちが見失っているものがあるのではないかと感じさせられました。